

## 第一次大戦中のメソポタミアにおけるイギリス軍 1914-1918 年

### 英国インド省メソポタミア局旧蔵資料

## British Campaign in Mesopotamia, 1914-1918

第一次大戦中のメソポタミアにおけるイギリス軍の行動は、戦争とその後の中東の歴史に対して及ぼした影響力の大きさを考えると、本来もっと関心を払うべき主題です。本コレクションはインド省メソポタミア局に収蔵された電信、書簡、会議録、覚書、機密文書を包括的に提供します。

1914 年、イギリス・インド合同軍は、ペルシア南部の石油採掘権を保護するとの名目の下に、メソポタミア地域に進攻したものの、不運が重なり、バグダッドとイラク北部都市を攻略するだけで終わります。作戦は当初、バスラの制圧に成功するも、合同軍は北部へ追われ、クートでオスマン帝国軍に包囲されます。救援の試みも空しく、イギリス軍は降伏し、捕虜は凄まじい屈辱と苦難を蒙り、トルコへの死の行進でその苦難はクライマックスに達します。1917 年、新しい総司令官が任命されるも、軍事政策は相変わらず一貫しません。ロシアが参戦してくれるとの希望も革命勃発により打ち砕かれ、砂漠の酷暑が作戦遂行に追い打ちをかけます。オスマン帝国との戦いは休戦まで続きました。作戦の遂行は調査委員会の調査に委ねられ、そこでは多くの軍人と軍事行政機構が厳しく批判されました。

- ◆ 収録期間: 1914-1918 年
- ◆ 収録資料の規模: 3,334 images
- ◆ 原資料所蔵機関: 英国公文書館(英国インド省旧蔵)

